

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と考察

令和6年12月4日

東御市教育委員会

令和6年4月18日に実施されました全国学力学習調査の東御市小中学校の結果の概要について報告いたします。

☆ 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

I 児童生徒に対する調査

1 教科に関する調査

教科に関する調査（国語、算数・数学）次の①、②を一体的に出題

- ①身に付けておかねば、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

2 調査分類・区分

小学校	国語	算数
分類	区分	区分
学習指導 要領の内 容等	<u>知識及び技能</u> ☆言葉の特徴や使い方に関する事項 ☆情報の扱い方に関する事項 ☆我が国の言語文化に関する事項 <u>思考力、判断力、表現力等</u> ☆話すこと・聞くこと ☆書くこと ☆読むこと	☆数と計算 ☆図形 ☆測定 ☆変化と関係 ☆データの活用
評価の観 点	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現 ☆主体的に学習に取り組む態度	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現 ☆主体的に学習に取り組む態度
問題形式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式

中学校	国語	数学
	区分	区分
学 習 指 導 要 領 の 領 域 等	<u>知識及び技能</u> ☆言葉の特徴や使い方に関する事項 ☆情報の扱い方に関する事項 ☆我が国の言語文化に関する事項 <u>思考力、判断力、表現力等</u> ☆話すこと・聞くこと ☆書くこと ☆読むこと	☆数と式 ☆図形 ☆関数 ☆データの活用
評 価 の 観 点	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現 ☆主体的に学習に取り組む態度	☆知識・技能 ☆思考・判断・表現 ☆主体的に学習に取り組む態度
問 題 形 式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式	☆選択式 ☆短答式 ☆記述式

Ⅱ 児童生徒を対象にした質問紙調査

1 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

主な調査項目は

- ・ 基本的生活習慣等
- ・ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
- ・ 地域や社会に関わる活動の状況等
- ・ I C Tを活用した学習状況
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳
- ・ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

結果

1 概要

○東御市における科目別平均正答率について

- ・ 小学校の結果は、国語は、全国平均とほぼ同等、算数は全国平均よりやや低い結果であった。
- ・ 中学校の結果は、国語、数学ともほぼ全国平均とほぼ同等の結果であった。

2 小学校 教科別考察

(1) 小学校国語

学習指導要領の内容別にみると「知識及び技能」はほぼ平均と同等である。

漢字の習得や文章の読解では、平均をやや上回る結果であるが、一方「思考力、判断力、表現力等」の内容について課題があった。特に「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連づけたりして、伝え合う内容を検討する」「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」問題で正答率がやや下がっている。

日頃の学習活動で自分の伝えたい内容を明確にして、材料を集めることや相手の求める内容を考慮して、話し合い活動ができるように授業の充実をさせていきたい。

正答率の分布では、上位層、中間層がやや少ない傾向である。ドリルの充実により、基礎的な内容を重視すると共に多様な学びを積極的な取り入れていく。

(2) 小学校 算数

学習指導要領の評価の観点で（思考・判断・表現）の問題に課題があった。

具体的には、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかの問題や速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題で正答率が低い傾向にあった。問題の答えを求めるだけでなく、それが意味するものを言語化して説明することを大切にしていきたい。速さの意味を根本的にしっかり理解して、距離、時間、速さがどれだけになるかを考えるなど、公式、原理の意味することを確実に理解する点をもう一度丁寧に進めたい。

現在も個の理解をしっかり把握することを大事にしているが、今後もタブレットなども活用しながら、学びの過程を重視し、それを話し合いによって説明、納得する学習を進めていきたい。

3 小学校の児童質問用紙

○概ね満足でき今後も力を入れていきたい項目

●今後力を入れていきたい項目

- 「朝食を毎日食べているか」「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」「同じ時間に起きているか」の質問についていずれも全国平均より高い、あるいは全国平均なみで生活のリズムができている子どもが多い。
- テレビゲーム、スマホでの動画視聴、SNS などを 3 時間以上利用している子どもは、全国平均よりかなり低く、親との利用の約束は守られている割合が高い。
- 「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して全国平均より高く、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問への回答もかなり高くなっており、子どもたちの姿を肯定的に受け止め、支援している状況がある。こうした教師の姿勢は今後も大切にしていきたい。
- 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しまし

たか」では、週 3 回以上の利用の割合が全国平均よりかなり高くなり、各教室で利用が進んでいることがわかる。

- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対して、そう思う、だいたいそう思うと答えた子どもは全国平均より高く、授業改善に向けて取り組んでいる主体的な学びが大切にされていると考えられる。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問は、これまで同様に高い傾向である。子どもたちを見守り育ててくださっている地域との関わりを今後も大事にしていきたい。
- 「学校に行くのが楽しいと思いますか」の質問にハイと答えて児童は、全国平均とほぼ同等であった。さらに 100%に近づくよう子どもたちを見守っていく。
- 国語、算数が好きであると回答した子どもの数が国語は、ほぼ全国平均、算数については平均より高い。しかし、理科と英語についてはまだ低い状況である。英語では、授業内容や進め方など検討しながら、子どもたちにとって、楽しい英語学習がすすめられるように取り組みをしていきたい。
- 「学校の授業時間以外に、普段 1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、1 時間以上の学習時間が全国平均に比べてやや少ない状況である。少しずつ改善されてきているが、家庭学習のあり方など検討しながら、学習の成果を認めるようにして、ていねいな支援をしていく必要がある。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、全国平均よりやや低い。上記の教科の質問とやや矛盾するが、日常的な話し合い活動は様々な学習活動につながるので、大切にしていきたい。
- 「友達関係に満足していますか」の質問で肯定的な答えが、やや低い。友だち関係についてしっかり見守り、支援をしていきたい。

4 中学校の教科別考察

(1) 中学校国語

学習指導要領の内容（知識及び技能 情報の扱い方に関する事項）で意見と根拠など情報と情報の関係を理解する問題で課題があった。学習指導要領の内容（思考力、判断力、表現力等 読むこと）で目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題課題があった。日頃の授業で自分の意見とその根拠となる事柄を明確にした話し合いをしたり、読み取りでも事実を裏付ける根拠をしっかりとらえさせるように意識して支援をしていきたい。

話すこと・聞くことの内容で、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えとする問題や短歌の表現技法について理解の問題で全国平均より高い成績であり、正答率の分布を見ると中央値が大きくなっており、全体的に基礎的な力がついていることがうかがわれる。

(2) 中学校数学

学習指導要領の領域（数と式）連続した偶数を文字を用いた式で表す問題、等式を目的に応じて変形する問題で課題があった。数学の基本的な事柄であるので、確実に解くことができるようにタブレットなども活用し、日常のドリル学習を大切にしていきたい。また、日常生活や社会の事象を表やグラフなどからデータの傾向を読み取り、考察、判断し、数学的に説明をする問題で課題があった。日頃の数学の授業でデータ、グラフを扱い考察する機会を増やしていきたい。これまで課題であった図形の領域に関しては、全国平均を上回る正答率となった。得点分布をみると、全国の分布とほぼ同様である。正答数の少ない生徒の割合が減っている。

5 中学校の生徒質問紙

○概ね満足でき、今後も力を入れていきたい項目 ●今後力を入れていきたい項目

- 「朝食を毎日食べているか」の質問に非常に高い割合ではいと回答している。
決められた時間に起床就寝しているかの質問は、ほぼ全国平均を上回っている。全体として生活のリズムができていると考察される。
- テレビゲーム、動画視聴などを 3 時間以上している生徒は全国平均と比べてかなり少ない状況である。今後もネットリテラシー、メディア利用の教育を丁寧に進めていく。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の 2 つの質問に対しては、はいと回答した数が全国平均より高く、子どもたちと教員との関係がよいことを表している。今後も子どもたちに寄り添い、日常的なあたたかなかわり、声がけを大切にしていきたい。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の問いにはいと答えた割合が高い。キャリア教育の充実と共にこの前向きな姿勢を大切にしていきたい。
- 「友達関係に満足していますか」について、大変多くの生徒がはいと答えている。「学校へ行くのか楽しいですか」の質問に対しても全国平均より高い回答がある。子どもが学校で安定して生活をしていることがうかがわれる。少数のマイナス回答の子どもたちにさらに目を向け、楽しい、明るい学校生活をつくっていきたい。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問には、多くの生徒がそう思う、だいたいそう思う を選び、全国平均より高い傾向である。地域の行事への参加や職業体験等を通して、学校と地域が結びついている結果であると思う。今後も様々な場面で地域の学校としての位置を大切にしていきたい。
- 「1、2 年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」の質問に毎日・週 3 回以上と答えた割合は、全国平均より高くなっている。タブレットでの学習について、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」という項目に多くの回答があった。昨年度と比較して、大幅に増加し、教室でタブレットが積極的に有効に使用されたことがわかる。今後も子どもたちの学習を進める大切なツールとして活用していきたい。

- 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」でそう思う、だいたいそう思うと答えた生徒の割合が、全国平均より高い。自ら考え、主体的な学びを進める授業づくりを今後も力を入れたい
- 「数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問にははいと答えた生徒が全国平均より高い傾向にもかかわらず、「数学の勉強が好きですか」の質問に肯定的に答えた生徒は、全国平均よりやや低い。授業改善のポイントとして、考えていきたい。
- 英語の授業で「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」の質問にそう思うと答えた比率が全国平均より低い。英語でのコミュニケーションを授業の中で自由に伝え合える学習を工夫して取り入れていきたい。
- 家庭学習の質問で一日の時間数、休日の時間数2時間以上と答えた割合が全国平均よりやや少ない。家庭学習の時間は、これまでも課題となっていたが、引き続き家庭での計画的な学習への指導を行っていきたい。